

問題一（一〇〇点）

次の文章を読んで、設問に答えなさい。

懐古の意味はどこにあるか

懐古というのはこの新世紀の冒頭を飾るキーワードのひとつになったようだ。これは前世紀末からのことだが、まずは江戸時代ブームというものがあった。二〇年超すのにまだ衰えぬ。このころは昭和三〇年代回顧の花盛りである。こういった現象の意味するところは誰の目にも明らかだと思う。人びとは確かに社会の仕組みから街並みの様子、自分たちの表情や声音まで激変してしまった現状に、なにか脅かされせき立てられているのだ。

そういう懐旧の感情はついこのあいだまで、退嬰的かつ反動的として一蹴されるのがふつうだったけれど、いまではそうはいかない。親殺し子殺しが続発するような今日の世相にただことならぬ感じを抱くのは、人として当然のことではないか。むしろ、親殺し子殺しはむかしからあったし、だからこそ江戸時代では、前者は特に重罪とされていた。だが、昨今の親子の殺し合いの様相は、むかしからあったではすまされぬ異様さを呈していて、そのことに気づかぬふりをしようというのは土台無理な話なのである。

このころの社会と人間の変貌には、娑婆はいつも変わっていくものだし、その変化は多少の弊害は伴うにしても結局は福利をもたらすのだといった、これまでは通用したかもしれぬ言説を一切無効にしてしまうような、なにか根本的に怖ろしいところがある。そのことに気づいていればこそ、人びとは過去を振り返らずにはおれぬのであるまいか。だとすれば懐古が逃避であるはずはなく、むしろ現代という一種の地獄からの脱出の第一歩ですらありうるはずなのだ。

だが、何が怖ろしいというのか。おれは一向に怖ろしくはないぞとおっしゃる方には申し上げる言葉がないにしても、何をもって現代文明を異常とするかという点で、私はもう少し具体的な話をしなければならないのだろう。しかし、それは追々追々小出しにすることにして、いまはふたつの例を挙げておこう。

ひとつは、あつという間に必要欠くべからざる小道具となったケータイのことだ。いったいあれは何なのか。便利なことはわかる。写真も撮れば、インターネットの機能もあるという。だが、どこに居ても連絡がとれる便利さは公衆電話が街角やオフィスや乗りものに完備されはすむことだし、写真はカメラで撮ればよいし、街を歩きながらネットを検索する必要はない。あんなものがなくても世の中は十分間に合っていたのだ。それがいまでは、街頭でも電車の中でも、いつせいに顔の前に短冊みたいなものをおつ立てて、しきりに画面を变换しながらじつと見入っている。実に異様で実におかしい。だが、笑った次には怖ろしくなる。

電車に乗り込むとすぐにケータイを取り出して、乗っている間ずっとパチパチやっている女子高校生をこないだ見かけた。不幸という名を画に描いたようだ。この人は家に帰ってもパソコンの画面を見入ったり、それに何か書きこんだりして時を過ごすのだろうか。つまりこの子はケータイやパソコンの画面とだけつきあつて生きていく方が楽なのだ。これが怖ろしくないなら、世の中に怖ろしいものはない気がするがどうだろう。

あなたはものを知らないで、ケータイやパソコンは若い人には連帯の手段なのだよ、たがいに会つたこともない人間とコンタクトして大いに盛り上がりつつたりしているのだよと教えたい方もいるかもしれぬ。それは私も承知はしているので、こないだテレビでケータイによるいじめという話をやっていた。自分の知らぬところでデマに類する情報が書きこまれ、あつという間に拡大する。そんないじめになぜ加担するのかと問われた高校生は、盛り上がるのが楽しいし連帯感が生まれると答えていた。

この盛り上がるというのも以前の日本人ならまずは使わない言葉だった。私は近ごろの球場風景を思い出した。誰か指揮しているふうでもないのに、いつせいにメガフォンみたいなのを振り回しかけ声をそろえて、まるで訓練された応援団である。これが盛り上がりであり連帯なのだろう。アメリカの球場で見られぬところであり、日本の球場でも高校野球以外はむかしはなかつた光景である。操られて共同動作をするのが楽しいので、戦後日本人が個人になつたなどという話が嘘の木葉であることがこれでわかる。こんなふうには盛り上がらなくては楽しくなれぬ時代、これは怖い時代ではないのだろうか。

ふたつ例を挙げただけで私は気分が悪くなった。私にとって現代は実にいやな時代

だ。だけれども、いやなことをつまみあげて八つ当たりしたって少しも楽しくはない。自分が老いぼれて新しい現象についていけないだけじゃないのかという反省もむろんある。だが、このごろの世の中がとても変だというのは、私のような老いぼれだけが感じているのではなく、まだ若い人びとがそう言い出しているのだ。肝心なのはこの変な世の中が、近代以来人間が追求し獲得してきた物事の集積の結果だということである。さらに、その集積の結果が実は人間の解放と福祉を願った一大奮闘努力のなせるわざなのかもしれぬということなのだ。

われわれは何を願い何を希んだあげく今日のような事態をもたらしたのか。数年前亡くなったイヴァン・イリイチは最善のものゝ墮落は最悪であるという警句をあとに遺した。最もよき意図が最も悪しき結果を生むというこの逆説は、果たして近代の歴史によつて実証されるのだろうか。過去をのぞきこむのはむずかしい。自分の属する現代の思考枠に従つて過去を裁くのなら、むしろのぞきこまぬにしくはない。過去はなつかしむものとしてあるのではなく、われわれを驚かすものとして存在する。江戸ブームにしたって昭和三〇年代ブームにしたって、過去の姿に驚いたからこそブームになったのだ。当然視される現代の価値観を揺るがすものがそこにあつた。懐古の意味はその点にあつたのである。

【出典】 渡辺京二『未踏の野を過ぎて』（筑書房、二〇一二年）

設問一 「懐古」が社会的なブームにまでなることの意味を著者はどのように考えているか、三〇〇字以内でまとめなさい。

設問二 著者は「私にとって現代は実にいやな時代だ」と言う。現代社会に対する著者のこのような「違和感」をどう思うか、あなたの考えを五〇〇字以内でまとめなさい。

問題 2 (100 点)

日本の生活保護に関する以下の資料をもとに、次の設問に答えなさい。

設問 1 図 1 - 1 と図 1 - 2, 図 2 - 1 と図 2 - 2, 図 3 - 1 と図 3 - 2 から何が読み取れるか, それぞれ 50 字以内で説明しなさい。

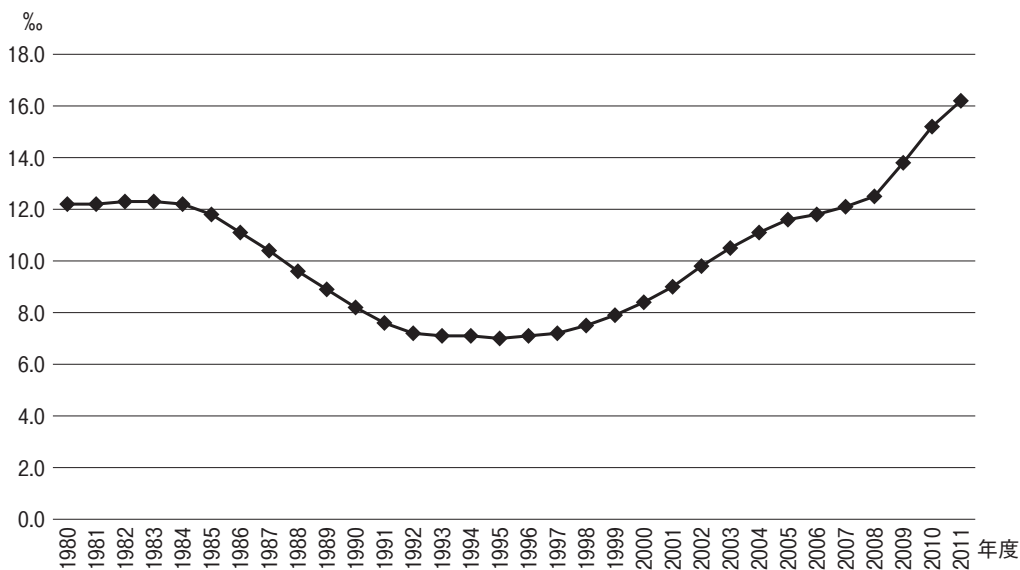
設問 2 全体を通して日本の生活保護の特徴として何がいえるか, 高齢社会の問題と絡めて, 450 字以内で論じなさい。

【出典】第一法規『平成 25 年度 保護のてびき』

厚生労働省『福祉行政報告例』

総務省『人口推計年報』

図 1 - 1 保護率の推移



注) 保護率とは、1000人当たりの被保護人員数。

‰は、1000分の1とする単位。

図 1 - 2 市部・郡部別被保護人員の推移

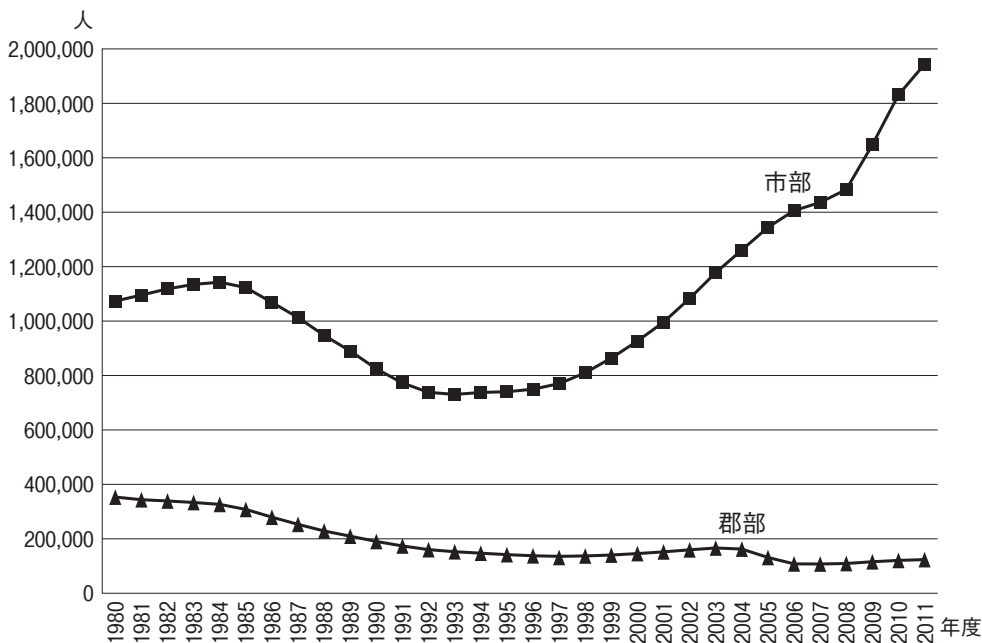


図 2 - 1 世帯類型別被保護世帯数の構成比の推移 (単位：%)

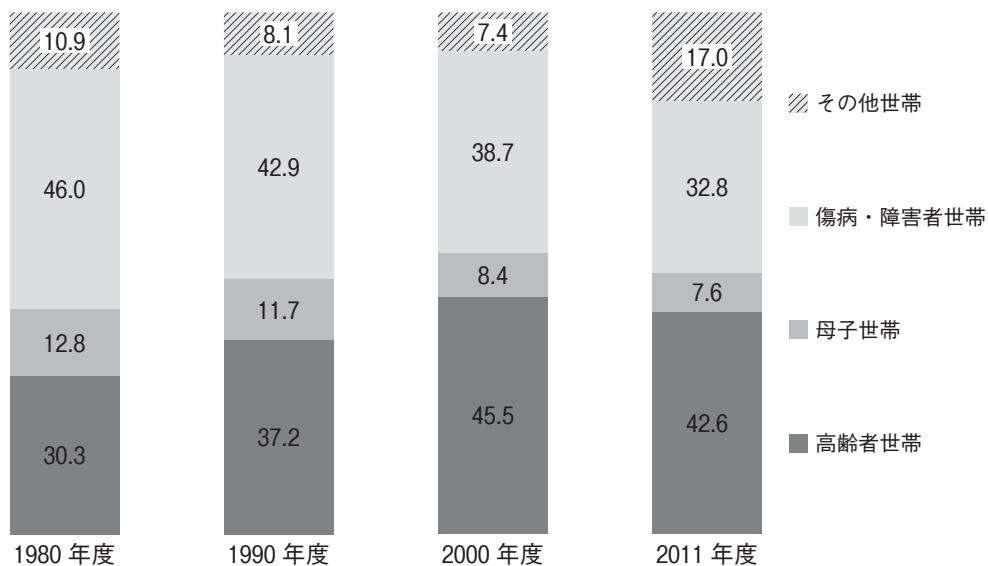


図 2 - 2 世帯人員別世帯数の構成比の推移 (単位：%)

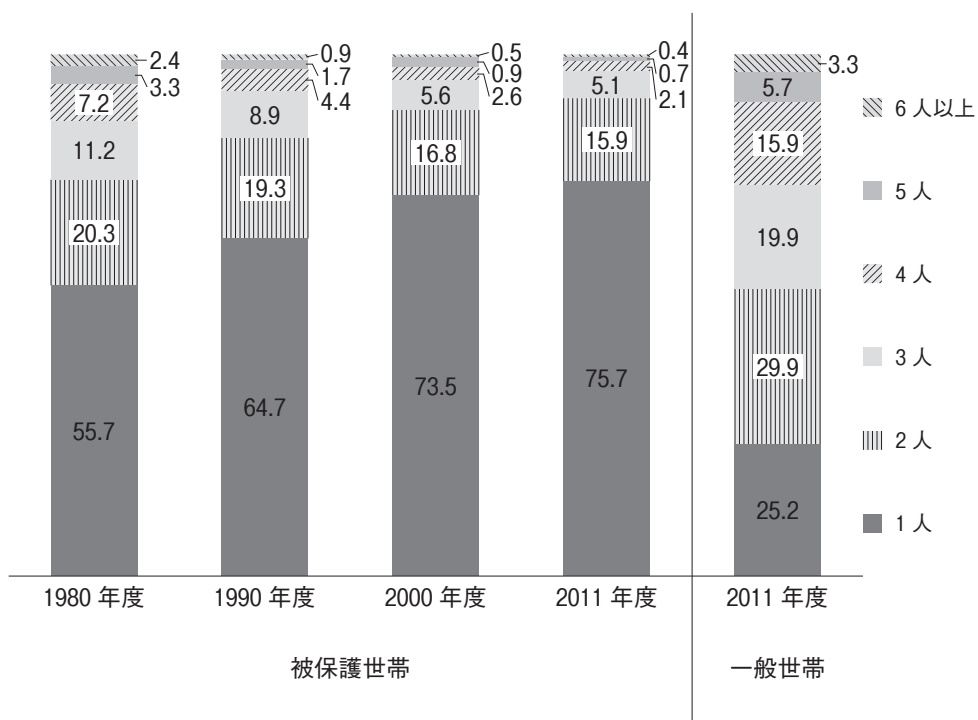


図 3 - 1 年齢階級別被保護人員の構成比（単位：％）

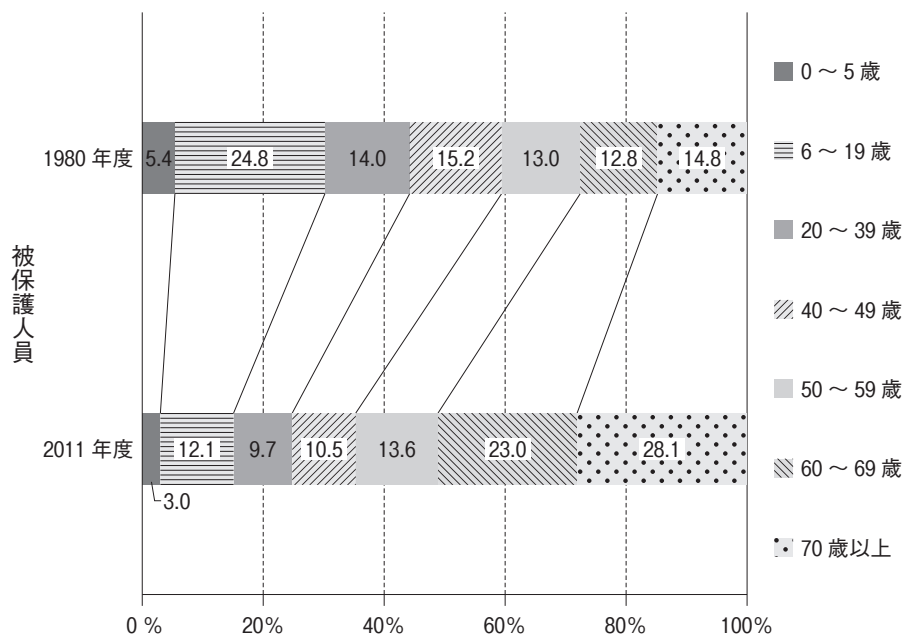


図 3 - 2 年齢階級別一般人口の構成比（単位：％）

